

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2014

1月

No.103

特集
P2・3

2014年の宍粟市社協
理事の新春メッセージ

地域みんなで進めたい
支え合いのまちづくり

ひ孫と
いっしょ

波賀町 谷

シリーズ102

おかだ たか子さん(94歳)

○朔哉くん(2歳3ヶ月)

おかだ けいすけ 由美さん

岡田 圭輔さん・由美さん

■長男

あけまして

おめでとー

ございます

平成26年



原点回帰

森本 都規夫 会長

(波賀町谷)



新年のお慶びを申し上げます。

第2次地域福祉推進計画により各事業を進めておりますが、近年、薄れつつある共に助け合う共助や、自立のための社会的援助が社協の原点です。常に利用される皆さんの目線で考え、少しでも喜んでいただける社協であるよう、役職員共に力を合わせ頑張ります。

幸は健康が一番!!

段林 繁 副会長

(二宮町生栖)



社協の役職員研修で、過疎高齢地域の皆さんと懇談する場がありました。厳しい現実の中、「自分の幸せのために」今、何が出来るのか懸命に考えて暮らされていることに感動しました。

お世話する人、される人、共に生き活き、今年も元気で頑張りますよ。

穴栗に役立つ 赤い羽根募金

谷林 俊美 副会長

(山崎町塩田)



昨年「やさしさが必ずとどく赤い羽根」の目標に向かって推進に取り組みました。皆様方には平素より共同募金推進に格別のご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

共同募金は穴栗市の地域福祉の推進に役立っています。今後ともご協力、ご支援いただきますようお願いいたします。

(穴栗市共同募金委員会会長)

地域の中に出かけていこう!!

猶原 卯一 副会長

(千種町下河野)



地域づくりは、人との出会いから始まるものです。そのためには、自分の身近なところから声をかけ合い、色々な人たちと話をすることで、地域づくりが生まれてくるものと思います。多くの人に本年も「地域づくり」に参加いただき、住みよい穴栗市になるよう共に頑張りますよ。

2014年の穴栗市社協

理事の新春メッセージ

地域みんなで進めたい
支え合いの
まちづくり

社協では、昨年7月から森本会長のもと、新たな体制で地域福祉活動に取り組んでいます。

「お互いさま」の カタチづくり

伊藤 次郎 理事

(山崎町段)



「お互いさま」という支援の力が響き合う地域づくりが求められています。

地域での暮らしを支え合うしくみを、市民のみなさんと福祉的アクションを起こしているみなさん、そして社協の職員が「お互いさま」のカタチづくりに微力ながら取り組んでいけたらと...。

よろしく願います。

地域の福祉活動を大切に

梶本 みゆき 理事

(山崎町庄能北)



お互いを認め合い、支え合い、安心して住み慣れた地域に生活していくには、そっと寄り添い、周りに心くばりのできる活動ができればと思います。

活動中の「ふれあい喫茶」や身近な見守り等を通して、「ストップ・ザ・無縁社会」につなげる一助となるよう努力していきたいと思っています。

社協をもっと利用して 福祉の拡大を

澤田 茂里 理事

(山崎町本鹿沢)



私はボランティア活動などで社協を利用する機会が沢山ありますが、「社協ってどんなことをしているの?」と思われる方もあると思います。情報発信をして、子どもや高齢者、障がいのある方もとより、地域の方々にもっと利用していただき、社協を通して誰もが安心して暮らせる地域づくりと福祉の拡大を願っています。

奉仕活動に感謝

安積 盛久 理事
(一宮町曲里)



社協に対する期待と役割は日ごと大きく変わっています。そんな中、地域の役員はじめ地域福祉の向上にご奉仕いただいている2千人近いボランティアの活動に感謝し、「つながりふくしプラン」達成へのさらなる広がりを願うところです。

「お互いさま」が合言葉

朽尾 多喜子 理事
(二宮町福野)



支え合いにつながってゆく気持ちを大切に育て、地域に広めていくことが地域福祉の最初の一步。
「お互いさま」を合言葉に、身近で自分の出来ることを見つけてゆきたいと思っています。
今年もまた新しい一歩を踏み出して行きましよう。

お互いに力を合わせて

植田 美代子 理事
(波賀町野尻)



神河町の過疎高齢化の進む集落で研修をしました。誰もが健康で生活したい…。高齢になると病院へ行くにも移送サービスを利用し、お互いに助け合いながら車に乗り合わせ。不便であっても自分が生まれ育つたふるさとが一番有り難く…。
過疎の進む小規模集落での生活には、そこに住む私達が地域への愛着を共有し、力を合わせる事が大切に思いました。

前へ進め!!

山根 勝 理事
(波賀町安賀)



若き時代に勤めた学校の校訓に、「今日のことは」その中に、すべてのものに感謝しよう。草にも木にも良い事をしよう。足もとをふり返えよう。進んで求めよう。というプラス志向がありました。
住み慣れた地域の福祉の充実をめざし、一人ひとりの英知を繋ぎ、おおぜの力で前へ前へ実践し、それぞれの地域なりの里づくりに挑戦しましょう。
社協は喜んでお手伝いをいたします。

地縁のつながり

向こう三軒両隣

尾畠 美佐子 理事
(千種町河呂)



地域の人と一緒に何かをする機会も減り過ごす中で、介護に尽くす人、悩みを抱えている人は、顔見知りにも自分から「ちょっと助けて」とはなかなか言えないものです。
そんな様子をキャッチしたときこそ温かく自然な声かけを!!向こう三軒両隣。見守り気にかかけ合うつながりを大切にしたいものです。

手を携えて地域の福祉を

金本 一二 理事
(千種町西河内)



福祉委員の見守り活動は、小地域福祉の要だと思っています。自治会役員、地区民生委員・児童委員、民生児童協力委員の皆さんと、社協の福祉委員が手を携え、周囲に心を配り、悩む人に寄り添って、昔ながらの助け合いを実行し、仲よく楽しく暮らせる地域社会となることを願っています。

福祉活動の支えは募金活動

平岡 千恵子 理事
(山崎町高下)



支え合い安心して暮らせるための活動の財源は、会費、さらに善意銀行への預託、共同募金等の募金活動等で支えられています。しかしその額も年々減少し、活動にも支障がはじめています。
寄付は心の豊かさの象徴でもあり、成熟社会の文化です。通常の募金だけでなく自分の記念日等にもよろしくご支援下さい。

鍵を握るのは私たち

世良 俊彦 理事
(六栗市健康福祉部次長)



社会的にサポートを必要とする高齢者や要介護高齢者が増えても、財源や人材には限りがあり、どのように考察してみても、その中でシェアをしていくほかありません。今から将来を見据え、行政との連携強化や役割について、慎重に協議する時期を迎えているように思います。
また福祉活動も、中心的役割を担う地域に住む、私達一人ひとりが鍵を握っているように思います。

や

まさき

ストーブを囲んで“ふれあい喫茶”

下広瀬自治会の福祉活動

12月15日(日)、下広瀬自治会で初めてのふれあい喫茶『ふれあいサロン in 下広瀬』が開催されました。初開催に向けて、自治会役員が丁寧に声をかけをし、当日は女性部のみなさんがおもてなし。

その甲斐あって、会場の公民館には29人の参加があり、相談ごとや最近の出来ごとなど話題は尽きず、ストーブを囲みにぎやかなふれあいの場となりました。会場からは、「久しぶりやわ。お元気そうで」と、あいさつで始まり「こんなことは初めてやな。またしてほしいわ」「ありがとう。また頼むわな」など、次回の開



「今朝はよう冷えたなあ」みなさん自然とストーブの周りに
(下広瀬公民館)

催を期待する声も聞かれました。「みんな来てくれるか心配だったけど、大勢来てくれて良かった。初めてにしては成功かな」と、自治会長の小林克己さん。これからも、誰もが気軽に参加できる取り組みとして、長く続いていくことを期待しています。
(山崎支部 森井裕矢)

い

ちのみや

唯一の小学生が喫茶の主役!

井内ふれあい喫茶「いっい」

12月15日(日)、井内いこいの家(公民館)で行われている「ふれあい喫茶いこい」を久しぶりに訪ねました。

井内自治会は、17世帯45人の小さな集落です。

いこいの家に入ると、「みんなできつよに…いただきます」と、喫茶店主の中尾朝治さん(老人クラブ会長)の声が聞こえます。

井内では、ふれあい喫茶のリーダーを「店主」と呼んでおり、当日は21人が参加しました。

「人が少のうなった」「来年で喫茶も10年に」「次の喫茶は2月にあるんやな」など話を聞く中で、話題は小学6年生の中尾一瑛君に集中します。

「君が唯一の小学生やで」「将来の夢は郵便屋さんやな」など、一瑛君がこの日の主役です。「これからも協力しな



ムードメーカーが場を盛り上げます(井内いこいの家)

がら喫茶を続けていきますよ」と、自治会長の溝口巖さん。人口減少や少子高齢化などの現状と向き合いながら、住民みんなの協力で福祉活動を進めている井内自治会。これからも喫茶いこいが、住民みんなの「憩いの場」となりますように…。
(本部・宮支部 波多野好則)

は
が



手づくりの出席カード
「皆勤賞をねらうで」

参加者の中には、「今日はこの体操までに6キロ歩いてきたんやで」と言われる元気な方もいらつしい

操されていました。12月2日（月）、朝の気温はマイナス1度。「始めよか」自治会長の掛け声のもと、寒さに負けず21人の方が元気に体操されていました。



毎朝しているので安否確認にもなります
(安賀公民館)

「出席カードにハンコ押してもらいよるんやで」「来んかったら心配してくれてやで、一度やりだしたらやめられんのんや」との声も聞かれました。自治会全体でラジオ体操ができることで、健康づくりはもちろん、お互いの元気な姿を確認できる機会にもなっています。みなさんの地域でも始めてみられてはいかがでしょうか。

(波賀支部 平有利菜)

「やりだしたらやめられん」

安賀でラジオ体操

毎朝7時、安賀公民館に住民のみなさんが集まってきました。

ました。

安賀自治会では、去年の夏休みに小学生と一緒にラジオ体操を始めたことがきっかけで、夏休みが終わってからも健康のために続けています。

「出席カードにハンコ押してもらいよるんやで」「来んかったら心配してくれてやで、一度やりだしたらやめられんのんや」との声も聞かれました。

自治会全体でラジオ体操ができることで、健康づくりはもちろん、お互いの元気な姿を確認できる機会にもなっています。

みなさんの地域でも始めてみられてはいかがでしょうか。

ち
くさ

おじいちゃん、おばあちゃんが先生

今年は、小・中学校合同しめ縄作り

「経験を積むことが大切だとわかった」、「地域の方の優しさや温かさを感じられた」という中学生の感想がありました。



「藁はこないに、なうんやで…」と丁寧な指導を受けます
(河呂公民館)

12月6日（金）、千種小学校、千種中学校の全校児童生徒約210名が各公民館等を訪れ、地元の老人クラブ会員の指導のもと、しめ縄作りを行いました。

「昨年は、中学生が一人じやったが、今年は小学生も来てくれてうれしいなあ」と下河野の猶原忠雄老人会長。

「来年は自分で作りたい」という小学生や

（千種支部 小原志のぶ）

配食サービス調理について話し合い



「自分も将来利用してみたい」という気持ちで、お弁当を作ります」と、みなさん。

12月4日(水) メイプル福祉センター

波賀の調理ボランティアグループが集まり、代表者会議を開きました。

社協から25年度上半期の利用状況などについて報告したほか、日頃の活動についても話し合われました。

食べやすい量や、気をつけることなど様々な意見交換や質問があるなか、「ボランティアが増えてほしい。まずは、お弁当を作る・届けるボランティア活動があることを多くの人に知ってほしい」と参加者のみなさん。

調理・配達など多くのボランティアに支えられている配食サービス事業。みなさんの意見や話し合いを事業に生かしたいと思います。

(波賀支部 草田希望)

みんなのチカラを合せて



みんなできつせいに窓拭き開始

12月4日(水) まどか園

一宮町福知にある「まどか園」で一宮ボランティア連絡協議会による清掃奉仕作業が行われました。

年末年始に向けて地域の福祉施設のお手伝いをしようとボランティア67名が集まり、窓ふき作業を行いました。

「近くにある施設でも行くことがないので、いい機会になった」と参加者のみなさん。

会長の進藤弘子さんは「声をかけるとこれだけのボランティアが集まるのは本当にありがたいことです。東日本を追悼するため昨年行った3.11のつどいも、たくさんの方々が集まってくださいました。みなさんのチカラを合せると本当に素晴らしいことができます」と言うてくださいました。

これからもみなさんのチカラを合せて、地域活動・ボランティア活動を盛り上げてください。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

ボランティアセンター日誌

施設の子どもたちの生活は?



東光園 大西園長が「ホーム」を案内

12月10日(火)

アメニティホーム広畑学園・児童ホーム東光園

社協では、毎年夏休みに施設の子どもたちのホームステイに協力いただいている里親ボランティアへ呼びかけ、今回初めての取組みとして、児童養護施設見学会を行いました。

里親ボランティア21名が、アメニティホーム広畑学園、児童ホーム東光園を訪問し、子どもたちが入所に至る経緯や施設での生活について学びました。

参加者からは「それぞれの施設に特色があり、生活を知ること子どもたちをより身近に感じました。」「園長先生の言われた子どもを育てるだけではなく、親育ても大事という言葉が印象的でした。」等、たくさんの感想をいただきました。

施設の子どもたちに家庭の雰囲気味わってもらおうと、宍粟市で58年も続いている短期里子事業。

来年もたくさんの「愛」で子どもたちを迎えてあげてください。

(本部・一宮支部 田中祥仁)

手話サークルに若い仲間が



「3びきのこぶた」練習中(センターちくさ)

12月19日(木)センターちくさ

手話サークルなのはな

手話サークルなのはなは、千種の手話サークルでろうあ協会のクリスマス交流会に毎年参加しています。サークルごとに出し物を考え、クリスマス会を盛り上げています。

今年同サークルでは、手話劇で『3びきのこぶた』に挑戦。11月から小道具を作ったり、セリフを練習したりしてきました。24日のクリスマス会でみんなに楽しんでもらえたらと頑張っています。

この日は最後の通し練習です。夏の手話教室から小学生のメンバーも増え、「毎回セリフが変わるなあ」「そやけど子どもは覚えるんが早いなあ」などいいながらサークルの勉強会もにぎやかです。

(千種支部 小原志のぶ)